

2020年度  
日本商工会議所

---

# 第156回

## 簿記検定試験

3級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。  
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

**れっく LEC**東京リーガルマインド



0 000212 203848

BL20384

# 第 156 回 解 答

## 第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	建 物 修 繕 費	5,500,000 2,500,000	当 座 預 金	8,000,000
2	売 上	50,000,000	損 益	50,000,000
3	支 払 利 息 当 座 預 金	80,000 4,920,000	手 形 借 入 金	5,000,000
4	支 払 家 賃 差 入 保 証 金 支 払 手 数 料	200,000 400,000 200,000	現 金	800,000
5	旅 費 交 通 費	11,800	未 払 金	11,800

仕訳 1 組につき各 4 点 合計 20 点

## 第 2 問 (10 点)

### 問 1

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越利益剰余金	350,000	損 益	350,000

### 問 2

①	②	③	④
利益準備金	次期繰越	3,140,000	1,650,000

問 1 2 点 問 2 各 2 点 合計 10 点

第3問 (30点)

合計試算表

X8年5月31日

借方合計		勘定科目	貸方合計	
☆	1,067,500	現金		525,200
☆	7,170,000	当座預金		5,665,000
	3,505,000	売掛金		2,970,000
	430,000	繰越商品		
	400,000	差入保証金		
	1,200,000	備品		
	2,430,000	買掛金		2,978,000
☆	50,000	前受金		110,000
	40,000	所得税預り金		80,000
		貸倒引当金		20,000
		備品減価却累計額		150,000
		資本金		2,500,000
		繰越利益剰余金		500,000
☆		売上		6,555,000
☆	3,679,200	仕入		40,000
☆	1,000,000	給料		
	400,000	支払家賃		
	200,000	支払手数料		
☆	96,500	発送費		
☆	425,000	水道光熱費		
	22,093,200			22,093,200

売掛金明細表

	5月26日	5月31日
奈良商店	¥ 500,000	¥ ★380,000
和歌山商店	200,000	155,000
	¥ 700,000	¥ 535,000

買掛金明細表

	5月26日	5月31日
長崎商店	¥ 310,000	¥ 218,000
高知商店	590,000	★330,000
	¥ 900,000	¥ 548,000

★につき3点 ☆の行につき3点 合計30点

第4問 (10点)

問1

補助簿 日付	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕入帳	売上帳	固定資産 台帳
1日		○						○
10日			○		○	○		
16日	○			○				

問2

振替伝票			
借方科目	金額	借方科目	金額
( 売 掛 金 )	( 800,000 )	( 売 上 )	( 800,000 )

問3 ¥ ( 15,000 )

問1 日付につき完答で2点 問2 2点 問3 2点 合計10点

# 第 156 回 解 答

## 第 5 問 (30 点)

### 問 1

決算整理後残高資産表

借方合計	勘定科目	貸方合計
2,129,000	現金	
4,615,000	普通預金	
6,435,000	売掛金	
1,765,000	繰越商品	
☆ 400,000	(前払)家賃	
4,500,000	備品	
3,000,000	貸付金	
	買掛金	4,620,000
	未払金	★ 10,000
	(未払)消費税	☆ 1,653,000
	未払法人税等	200,000
	(前受)利息	☆ 60,000
	貸倒引当金	64,350
	借入金	1,000,000
	備品減価償却累計額	1,800,000
	資本金	10,000,000
	繰越利益剰余金	2,109,000
	売上	41,280,000
	受取利息	30,000
	(償却債権取立益)	☆ 35,000
★ 24,785,000	仕入	
145,000	発送費	
2,400,000	支払家賃	
350,000	租税公課	
★ 12,350	貸倒引当金繰入	
★ 450,000	減価償却費	
11,025,000	その他の費用	
★ 850,000	法人税等	
62,861,350		62,861,350

問 2 円 (★ 1,327,650 )

★につき 3 点 ☆につき勘定科目もあっていて 3 点 合計 30 点

**【3級総評】**

全体としては基本から標準レベルの問題でした。過去に出題されている論点も多く、合格答練などでしっかりと準備していれば、合格点を取ることは十分に可能な難易度でした。

**【解説】****第 1 問**

仕訳に関する問題です。勘定科目は指定された中から最適なものを選んで、正確に記入する必要があります。

## 1. 修繕費・資本的支出

支払額のうち、建物の価値を高める資本的支出部分は、建物を増加させます。一方、機能維持のための収益的支出については、修繕費として費用計上します。

## 2. 売上勘定の損益振替

売上勘定について、決算整理後残高¥50,000,000を損益勘定に振替えるため、売上勘定の残高がゼロになるように仕訳をします。また、相手勘定科目は損益とします。

## 3. 手形借入金

借入にあたって手形を振出しているため、手形借入金で処理します。また、利息を差引かれてた金額が当座預金口座に入金されているので、支払利息の計上も行います。

## 4. 賃貸契約と差入保証金

オフィスの賃貸契約に際して支払った家賃部分は支払家賃で処理します。また、敷金は差入保証金で、不動産会社への仲介手数料は支払手数料で処理します。

## 5. 証ひょうの読取り・出張旅費の精算

従業員が出張時に立替えていた金額を旅費交通費として費用計上します。また、従業員へ支払が必要ですが、月末に支払うので未払金の増加の処理をします。

# 第 156 回 解 説

## 第 2 問

繰越利益剰余金勘定の 1 年間の記帳の流れを問う問題です。第 3 期における繰越利益剰余金勘定の期首残高は、第 1 期及び第 2 期の繰越利益剰余金の処理を考えて求めます。

### I. 第 1 期

3 月 31 日 資本振替

損益勘定で算定された当期純利益は、資本振替仕訳により繰越利益剰余金勘定へ振替えられます。本問では、当期純利益 ¥2,000,000 を繰越利益剰余金勘定へ振替えます。

(借) 損	益 2,000,000	(貸) 繰越利益剰余金	2,000,000
-------	-------------	-------------	-----------



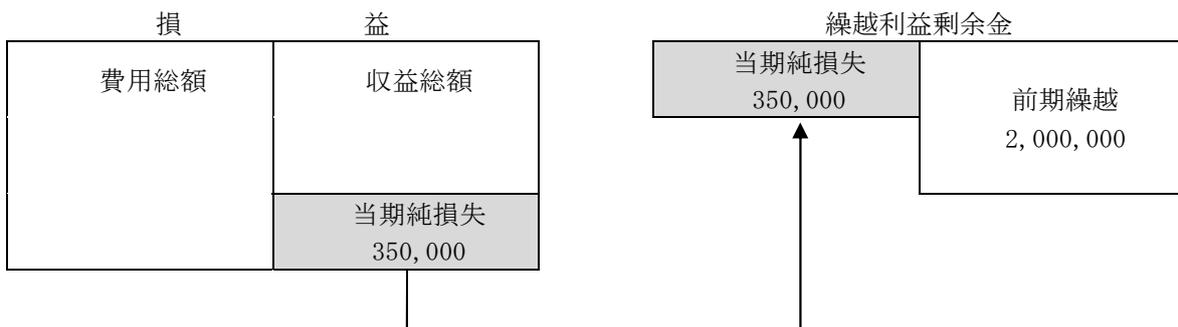
繰越利益剰余金				
3/31	次期繰越	2,000,000	3/31 損益	2,000,000

### II. 第 2 期

3 月 31 日 資本振替 . . . 問 1 の解答

損益勘定で算定された当期純損失は、資本振替仕訳により繰越利益剰余金勘定へ振替えられます。本問では、当期純損失 ¥350,000 を繰越利益剰余金勘定へ振替えます。

(借) 繰越利益剰余金	350,000	(貸) 損益	350,000
-------------	---------	--------	---------



繰越利益剰余金				
3/31	損益	350,000	4/1 前期繰越	2,000,000
"	次期繰越	1,650,000		
		2,000,000		2,000,000

II. 第 3 期

6 月 25 日 期中取引・剰余金の配当等

株主総会の決議により、繰越利益剰余金の処分が承認されたので、使い道の決まった分だけ、繰越利益剰余金の減少として処理します。

(借) 繰越利益剰余金	110,000	(貸) 未払配当金	100,000
		利益準備金	10,000

6 月 28 日 期中取引・配当金の支払い

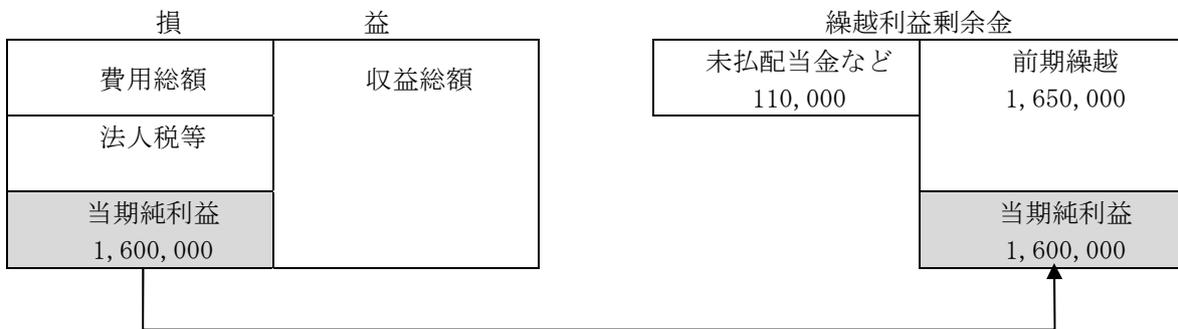
6 月 25 日に計上した未払配当金の支払いをしたので、未払配当金を減少させます。

(借) 未払配当金	100,000	(貸) 普通預金	100,000
-----------	---------	----------	---------

3 月 31 日 資本振替

損益勘定で算定された当期純利益は、資本振替仕訳により繰越利益剰余金勘定へ振替えられます。本問では、当期純利益 ¥1,600,000 を繰越利益剰余金勘定へ振替えます。

(借) 損	益	1,600,000	(貸) 繰越利益剰余金	1,600,000
-------	---	-----------	-------------	-----------



繰越利益剰余金					
6/25	未払配当金	100,000	4/1	前期繰越	1,650,000
"	利益準備金	10,000	3/31	損益	1,600,000
3/31	次期繰越	3,140,000			
		3,250,000			3,250,000

## 第156回 解説

### 第3問

合計試算表と売掛金明細表および買掛金明細表の作成に関する問題です。5月27日から31日までの取引を仕訳して勘定科目ごとに集計します。

[×8年5月27日から31日までの諸取引]

27日	(借)	前受金	30,000	(貸)	売上	80,000
		売掛金(奈良)	50,000			
		発送費	1,000		現金	1,000
	(借)	売掛金(和歌山)	50,000	(貸)	売上	50,000
		発送費	800		現金	800
	(借)	給料	500,000	(貸)	所得税預り金	40,000
					当座預金	460,000
28日	(借)	仕入	60,500	(貸)	買掛金(長崎)	60,000
					現金	500
	(借)	仕入	40,000	(貸)	買掛金(高知)	40,000
	(借)	水道光熱費	25,000	(貸)	当座預金	25,000
	(借)	現金	90,000	(貸)	当座預金	90,000
29日	(借)	売掛金(奈良)	70,000	(貸)	売上	70,000
		発送費	1,200		現金	1,200
	(借)	前受金	20,000	(貸)	売上	55,000
		売掛金(和歌山)	35,000			
		発送費	1,000		現金	1,000
	(借)	買掛金(高知)	40,000	(貸)	仕入	40,000
30日	(借)	仕入	38,700	(貸)	買掛金(長崎)	38,000
					現金	700
	(借)	仕入	40,000	(貸)	買掛金(高知)	40,000
31日	(借)	水道光熱費	80,000	(貸)	当座預金	80,000
	(借)	当座預金	240,000	(貸)	売掛金(奈良)	240,000
	(借)	当座預金	130,000	(貸)	売掛金(和歌山)	130,000
	(借)	買掛金(長崎)	190,000	(貸)	当座預金	190,000
	(借)	買掛金(高知)	300,000	(貸)	当座預金	300,000
	(借)	当座預金	60,000	(貸)	前受金	60,000

**第 4 問**

補助簿の選択と伝票会計を中心とした複合問題です。今後は、この問題のように、複数の論点を織り交ぜた問題が出題される可能性が高いです。

**問 1 補助簿の選択**

日付ごとに取引を仕訳し、使用した勘定科目について補助簿が設定されているかを考えます。

7月1日 備品の購入

備品の取得価額は、本体価格（購入代価）に付随費用（引取運賃）を加算した金額です。

(借)	備	品	900,000	(貸)	当	座	預	金	900,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

記入する補助簿：当座預金出納帳、固定資産台帳

7月10日 仕入

仕入を計上します。前払金充当後の残額は買掛金で処理します。

(借)	仕	入	350,000	(貸)	前	払	金	50,000
					買	掛	金	300,000

記入する補助簿：商品有高帳、買掛金元帳、仕入帳

7月16日 売掛金の回収

売掛金を現金で回収しているため、現金を増加させ、売掛金は減少させます。

(借)	現	金	90,000	(貸)	売	掛	金	90,000
-----	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

記入する補助簿：現金出納帳、売掛金元帳

**問 2 伝票の起票・一部現金取引**

伝票会計の問題です。取引の仕訳を考え、入金伝票の記入内容から処理の仕方を考えます。

取引を仕訳すると次のようになります。

(借)	現	金	50,000	(貸)	売	上	800,000
	売	掛	金	750,000			

入金伝票の科目欄に「売掛金」と記入済みのため、いったん全額を掛売上と考えて起票します。

振替伝票：	(借)	売	掛	金	800,000	(貸)	売	上	800,000
入金伝票：	(借)	現	金	50,000	(貸)	売	掛	金	50,000

**問 3 31日に計上される減価償却費**

1日に取得した備品の1年分の減価償却費を求め、これを12で除して1ヶ月分の減価償却費を計算します。

$$31 \text{ 日に計上される減価償却費} : (\text{¥}900,000 - \text{¥}0) \div 5 \text{ 年} \times \frac{1 \text{ ヶ月}}{12 \text{ ヶ月}} = \text{¥}15,000$$

第 5 問

決算整理後残高試算表作成と当期純利益に関する問題です。

問 1 決算整理後残高試算表の作成

決算整理事項等にもとづいて未処理事項及び決算整理事項の仕訳を行い、決算整理前残高試算表の金額に加減算し、決算整理後残高試算表を作成します。

決算整理事項等の処理は次のとおりです。

1. 仮受金の精算

(借) 仮 受 金	35,000	(貸) 償 却 債 権 取 立 益	35,000
-----------	--------	-------------------	--------

2. 発送費の未払計上

(借) 発 送 費	10,000	(貸) 未 払 金	10,000
-----------	--------	-----------	--------

3. 貸倒引当金の設定

売掛金の期末残高に対して、貸倒見積額を計算します。

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	12,350	(貸) 貸 倒 引 当 金	12,350
-------------------	--------	---------------	--------

貸倒見積額： $¥6,435,000 \times 1\% = ¥64,350$

貸倒引当金繰入： $¥64,350 - ¥52,000 = ¥12,350$

4. 売上原価の算定

まず、期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定に振替えます。次に、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定に振替えます。これにより、仕入勘定の決算整理後残高は売上原価となります。

(借) 仕 入	1,800,000	(貸) 繰 越 商 品	1,800,000
(借) 繰 越 商 品	1,765,000	(貸) 仕 入	1,765,000

5. 減価償却

(借) 減 価 償 却 費	450,000	(貸) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	450,000
---------------	---------	-----------------------	---------

減価償却費： $(¥4,500,000 - ¥0) \div 10 \text{年} = ¥450,000$

6. 消費税の処理

仮受消費税と仮払消費税の差額を未払消費税で処理します。

(借) 仮 受 消 費 税	4,128,000	(貸) 仮 払 消 費 税	2,475,000
		未 払 消 費 税	1,653,000

7. 受取利息の前受け

すでに受取っている受取利息のうち、翌期の分については、当期の受取利息の集計から除くとともに、前受けの処理をします。

(借) 受 取 利 息	60,000	(貸) 前 受 利 息	60,000
-------------	--------	-------------	--------

前受利息： $¥3,000,000 \times 3\% \times \frac{8 \text{ヶ月}}{12 \text{ヶ月}} = ¥60,000$

8. 仮払金の精算と支払家賃の前払い

仮払金が支払い家賃の前払分であることが判明したので、仮払金から前払家賃へ振替えます。

(借) 前 払 家 賃	400,000	(貸) 仮 払 金	400,000
-------------	---------	-----------	---------

9. 法人税等の計上

法人税等と仮払法人税等との差額を未払法人税等で処理します。

(借) 法 人 税 等	850,000	(貸) 仮 払 法 人 税 等	650,000
		未 払 法 人 税 等	200,000

問 2 当期純利益または当期純損失の算定

収益・費用・法人税等の決算整理後残高は、損益振替により損益勘定に振替えられ、損益勘定の残高として、当期純利益又は当期純損失が求められます。

		損 益		
3/31	仕 入	24,785,000	3/31 売 上	41,280,000
〃	発 送 費	145,000	〃 受 取 利 息	30,000
〃	支 払 家 賃	2,400,000	〃 償 却 債 権 取 立 益	35,000
〃	租 税 公 課	350,000		
〃	貸 倒 引 当 金 繰 入	12,350		
〃	減 価 償 却 費	450,000		
〃	そ の 他 の 費 用	11,025,000		
〃	法 人 税 等	850,000		
	貸方残高=当期純利益	∴ 1,327,650		